

スマートプラチナ社会推進会議 戦略部会(第5回)

スマートプラチナ社会実現に向けたプラットフォーム構想

2014年4月4日

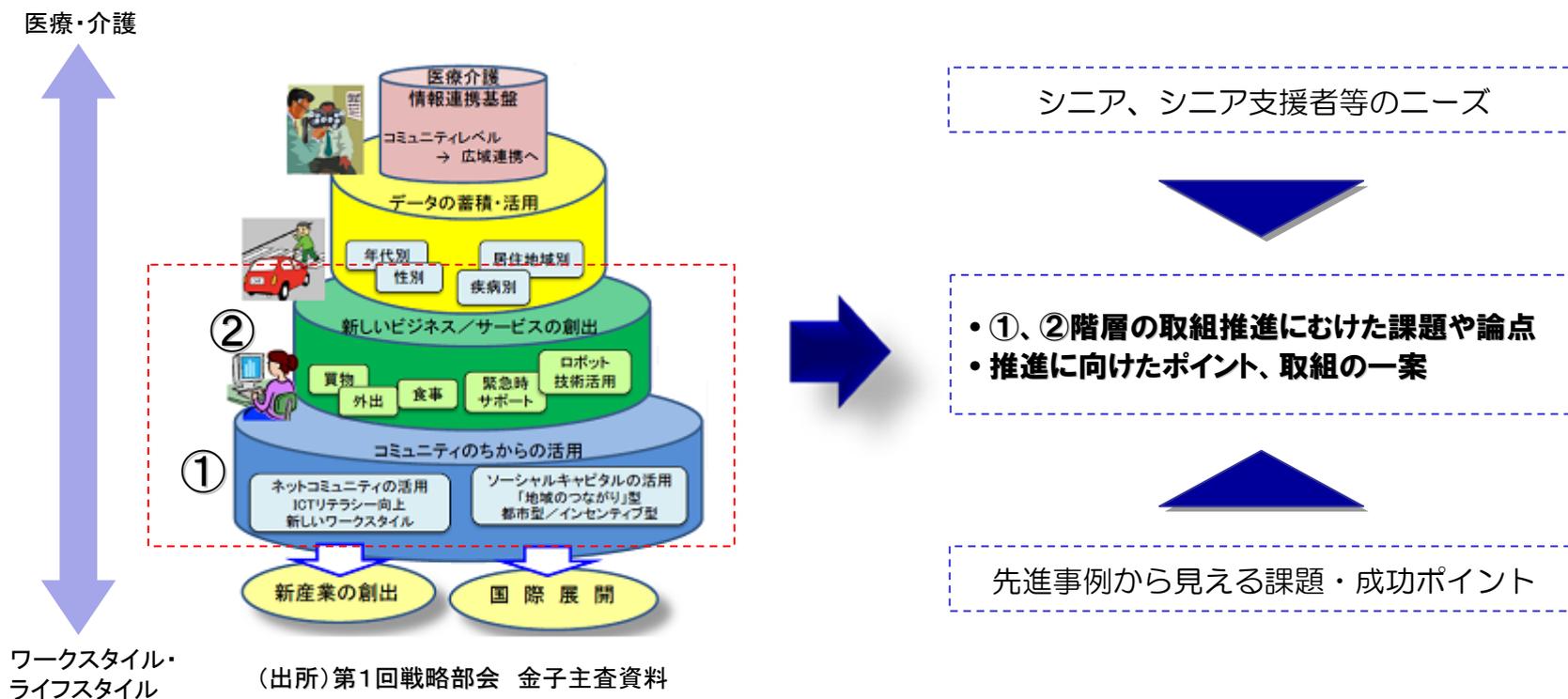
みずほ銀行
産業調査部

本資料は弊行がその正確性・確実性を保証するものではありません。法務・税務・会計等の詳細は貴社の顧問弁護士・税理士・会計士等の専門家へご確認下さいませ。

Strictly Confidential

スマートプラチナ社会構想実現に向けた取組 1/3

- ▶ スマートプラチナ社会の展開には、①コミュニティのちからの活用、②ライフサポート等の新しいビジネス/サービスの創出、③健康・予防におけるデータの蓄積・活用、④医療介護情報連携基盤の4階層の取組推進が求められる中、①、②階層の取組推進は、ワークスタイルやライフスタイルとの関連性が強く、制度設計やシステムの観点と併せ、社会全体に取組が受容・活用される仕掛けが不可欠と思料。
- ▶ 以下、シニアのニーズ、先進取組事例から、①、②階層の取組推進にむけた課題や論点を整理し、推進に向けたポイントや取組の一案を提起する。



スマートプラチナ社会構想実現に向けた取組 2/3

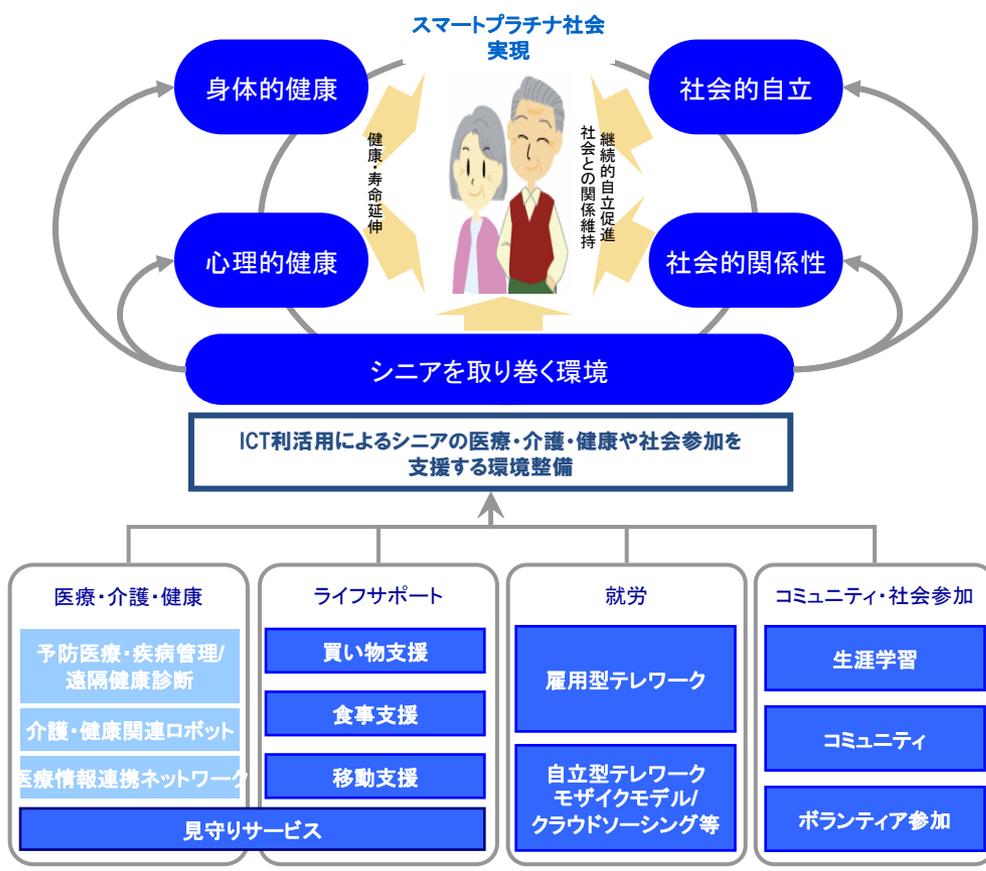
- ▶ スマートプラチナ社会を実現するためには、①シニアの健康寿命の延伸、②自立促進の仕組み構築、③社会(コミュニティ)との関係性の維持の3点が重要と思料
- ▶ 上記の実現に資する施策を整理し、さらに個々の施策の実現性を高めることが必要

シニア向けICTシステム・サービスの概観とスマートプラチナ社会実現との関連イメージ

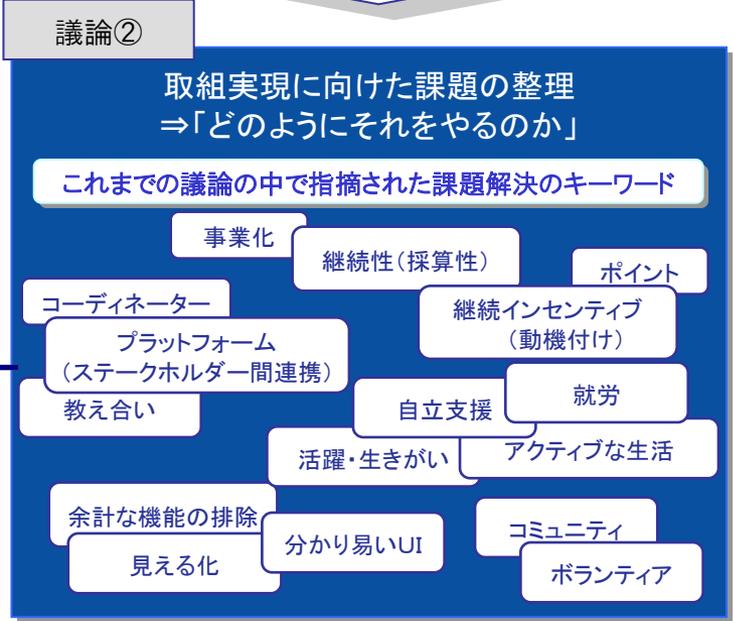


スマートプラチナ社会構想実現に向けた取組 3/3

▶ 「スマートプラチナ社会実現に向けた課題整理」のためには、シニアのニーズを踏まえ「なぜそれをやるのか」の取り組み意義の整理と、実際の取り組みレベルで障害を克服し、実現に漕ぎ着ける「どのようにそれをやるのか」の2段階での整理・検討が必要



議論①
 取り組み意義(ニーズ)の整理
 ⇒「なぜそれをやるのか」



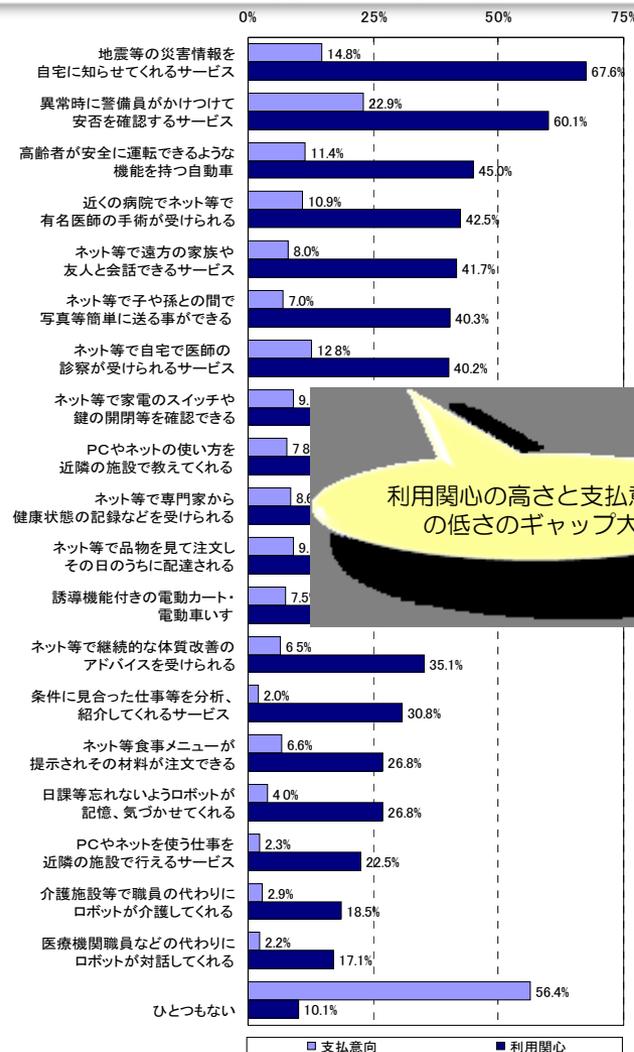
ICTを活用したライフサポートサービスのニーズと課題

- ▶ シニア世代は、ICTを活用した様々なライフサポートサービスに関心を持つ。その一方で、緊急時の駆けつけや遠隔医療等、効用が明確なサービスに対する支払い意向を持つが、その他のICTを活用したサービスに対する支払い意向は低く、ICT活用という視点での関心と有償活用との間にギャップが存在。
- ▶ 例示したICTを活用したサービスに関し、支払意向を持つサービスがひとつもないと回答した割合が過半数。
- ▶ この理由として、ICTを活用したサービスの具体的な利便性・便益イメージの分かりづらさ、ICT活用のリテラシーの低さがその原因と思料。
- ▶ ICTと分かり易い“リアル”なサービスとの組み合わせ、操作の簡易性やICT活用支援体制、利便性を実感する機会を増やすことが必要。

➡ 関心と実用のギャップを埋めるための取組が不可欠

- 便益・利便性の見える化 (ICT&リアルなサービスの組合せ)
- ICT利活用のリテラシー向上
- 実感の場

ライフサポートサービスへの利用関心と支払意向



利用関心の高さと言支払意向の低さのギャップ大

コミュニティ・社会参画のニーズと課題

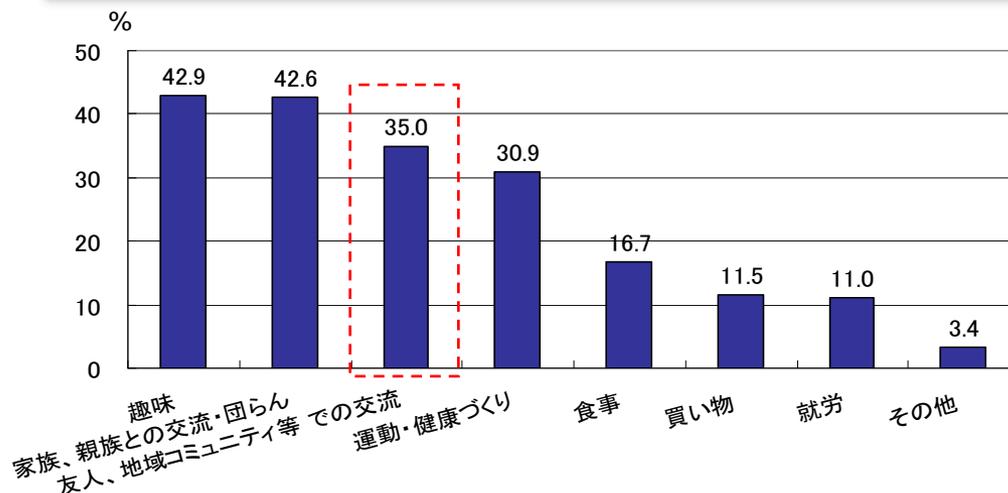
- ▶ シニア世代の生きがいの上位は、「趣味」、「家族・親族との交流・団らん」、「友人、地域コミュニティ等での交流」の順で、シニア世代にコミュニティの果たす役割は大。
- ▶ コミュニティ・社会参画促進に「参加を検討してもよい」とするシニアは、現在参画のシニアと同程度の存在。潜在層のシニアのコミュニティ・社会参画促進が今後の課題。
- ▶ 潜在シニアは、社会参画に関心を持ちながらも、参画の“きっかけ”を持ってないと推測。“きっかけ”と“場”を提供するシニアの社会参画促進の取組は、シニア世代の引きこもり対策としても効果的と思料。
- ▶ ICTは、各種のコミュニティ・社会参画の情報提供、コミュニケーションの活性化に結びつくと期待。



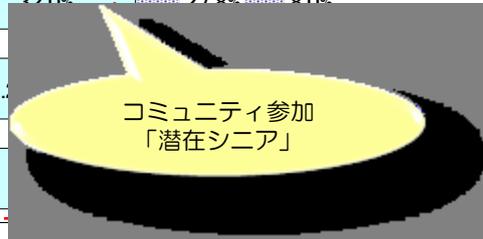
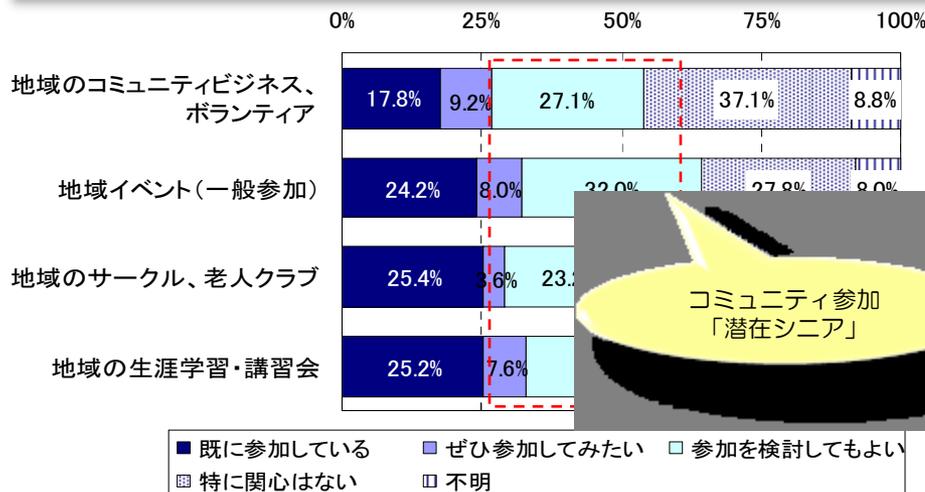
潜在シニアのコミュニティ・社会参画の促進策が必要

- 参画の“きっかけ”と“場”の充実
- ICTによる情報提供・コミュニケーション活性化

シニアが「生きがい」と感じる活動



シニアの地域のコミュニティビジネス、ボランティアへの参加意向

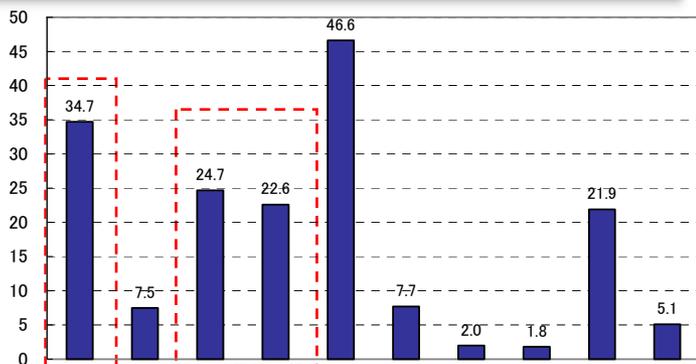


■ 既に参加している ■ ぜひ参加してみたい ■ 参加を検討してもよい
 ■ 特に興味はない ■ 不明

(参考)シニア層やシニア支援者の就労ニーズと課題

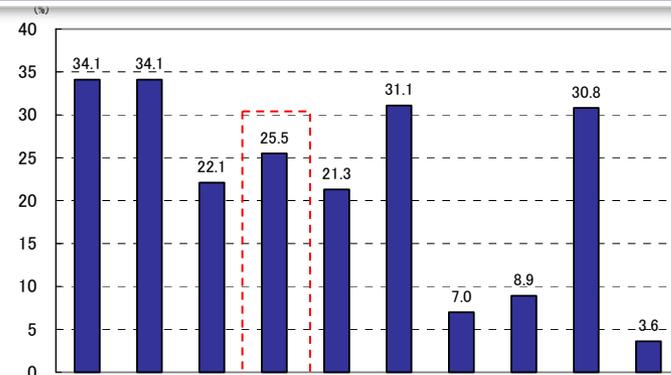
- ▶ シニア層は、健康・体力への不安を持ちつつも、60代を中心に就労ニーズが高い。シニア層に加えシニア支援者等、ライフイベントに柔軟に対応したワークスタイルを実現するための仕組みづくりは、高齢社会にとって不可欠かつ重要な施策。
- ▶ シニア層の場合、健康・体力的制約を前提とした上で、業務内容のマッチングの解消、在宅就労や短時間就労等、時間・地理的場所の制約解消がシニアの就労を促進する上でのポイント。働き盛りの世代を中心に介護等を行うシニア支援者にとって在宅勤務への支援を要望は高い。
- ▶ ICTを活用した在宅勤務やサテライトオフィス等のテレワーク導入促進、マッチング促進は上記課題に対する有効な方策。

シニアの就労にあたっての課題



	n=	自分の希望にそった内容の仕事がみつけない	新しい仕事をしたいが、技能等を獲得する機会がない	自分の希望にそった時間の仕事がみつけない	自分の希望にそった場所の仕事がみつけない	健康や体力に不安がある	希望にそった報酬を得られる仕事が見つからない	起業したいが、店舗や設備に必要な資金がない	起業したいが、必要なノウハウや相談できる相手がいない	その他	不明
TOTAL	1,000	34.7	7.5	24.7	22.6	46.6	7.7	2.0	1.8	21.9	5.1
男性:65~69歳	181	52.5	6.6	30.4	31.5	32.0	12.2	2.8	1.7	12.2	3.9
女性:65~69歳	202	32.7	9.4	28.7	24.3	53.5	6.9	2.5	2.5	15.8	4.5
男性:70~74歳	157	42.7	12.7	28.0	28.0	41.4	7.0	1.9	2.5	24.8	5.7
女性:70~74歳	178	25.3	4.5	20.2	16.3	51.1	5.6	1.7	1.1	27.5	6.2
男性:75歳以上	123	32.5	4.9	26.0	24.4	53.7	10.6	2.4	1.6	20.3	1.6
女性:75歳以上	159	21.4	6.3	13.8	10.7	49.1	4.4	0.6	1.3	32.7	8.2

シニア介護に関する支援ニーズ

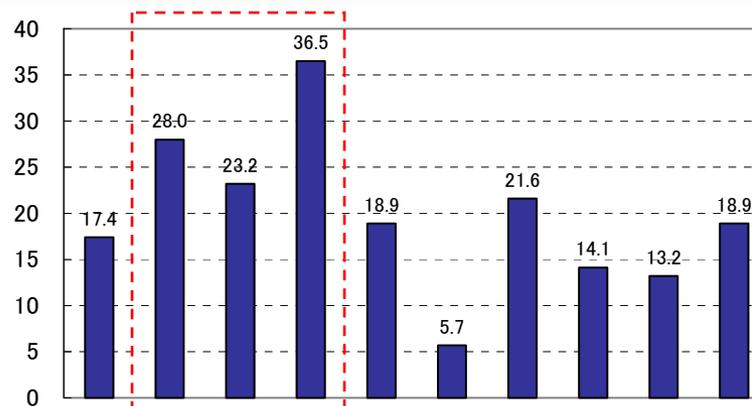


	n=	力のいる作業を代わりに行ってくれる	家事を代わりに行ってくれる	自宅にいながら買い物ができる	自宅で仕事ができる	要介護者の健康状態を自動的に記録し、問題があれば教えてくれる	自宅にいながら医師や専門家のアドバイスが受けられる	自宅にいながら必要の高齢者を持つ他の家族と交流できる	自宅にいながら友人や知人と交流できる	適切な介護サービスを紹介してくれる	その他具体的に:
TOTAL	1,245	34.1	34.1	22.1	25.5	21.3	31.1	7.0	8.9	30.8	3.6
男性40-49歳	255	29.8	36.1	20.0	33.7	17.3	26.7	7.8	9.0	23.5	3.1
男性50-59歳	223	32.3	37.2	21.1	27.4	17.9	24.7	7.2	7.2	26.5	4.0
男性60-64歳	148	26.4	38.5	16.2	18.2	30.4	31.8	9.5	7.4	34.5	4.7
女性40-49歳	245	38.0	29.0	20.8	33.5	20.8	32.2	7.3	8.2	34.7	1.2
女性50-59歳	218	39.4	33.0	27.5	19.7	20.6	37.6	5.5	8.7	36.2	4.6
女性60-64歳	156	37.8	31.4	26.9	11.5	25.6	35.9	4.5	14.1	32.1	5.1

(参考)シニア層の生活における懸念

- ▶ シニア層の生活における懸念は、「諸手続」36.5%、「食事」28.0%、「買い物」23.2%、「通院」25.2%の順。
- ▶ 性・年代別にみると「諸手続」は女性75歳以上・70～74歳、「食事」は男性70～74歳・65～69歳、「買い物」は女性75歳以上、「通院」は女性75歳以上・男性75歳以上・女性75歳以上・65～69歳が高い。
- ▶ シニアのうち女性は、煩雑な「諸手続き」、男性は「食事」と自身の経験が相対的に少ない内容を懸念する傾向にある。また、「買い物」は日常的に行う行為として、その主な担い手である女性が懸念する傾向。
- ▶ ICTの活用は、シニアの生活における各種の懸念を緩和に寄与すると期待される。

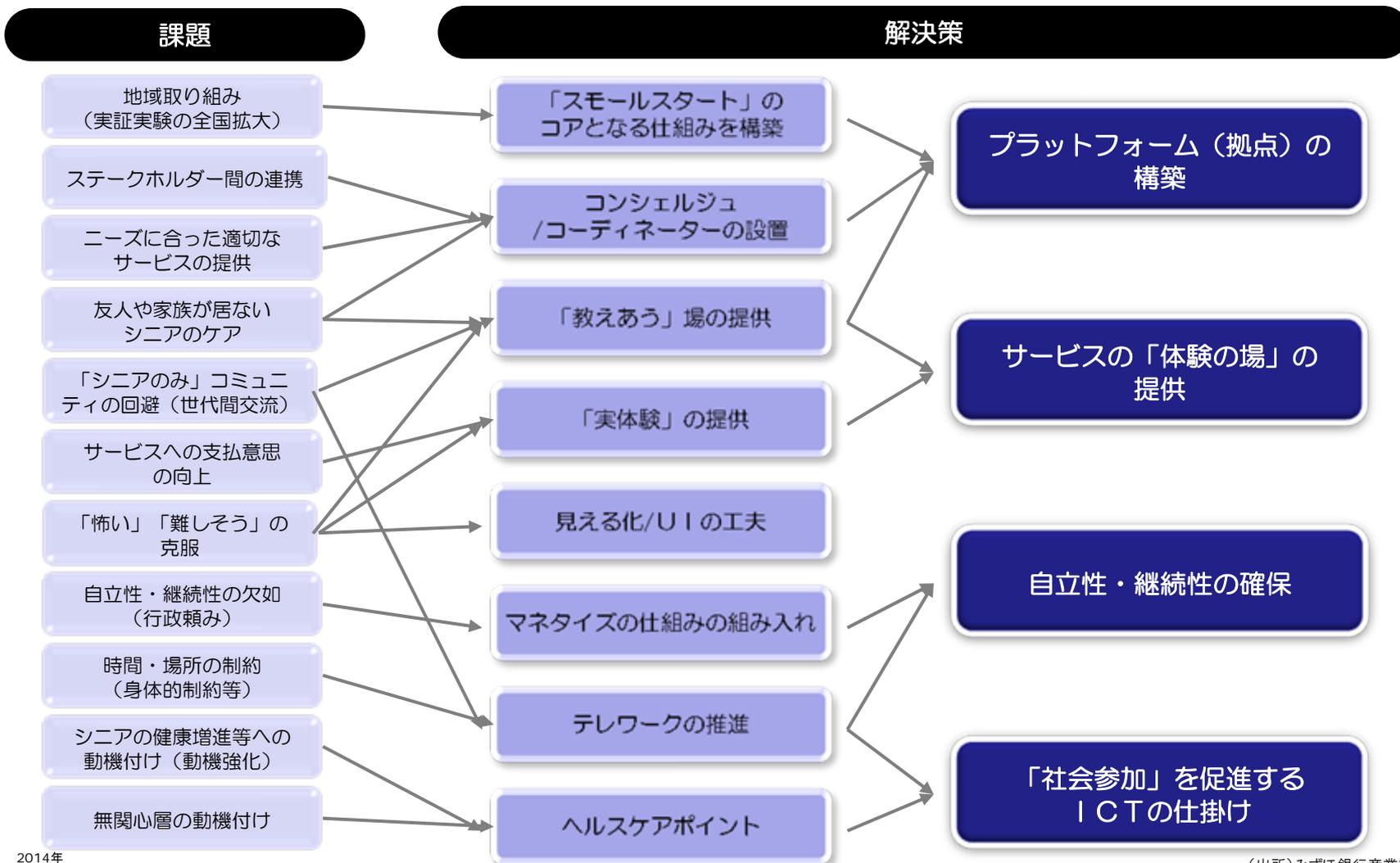
シニアが今後の生活で懸念する点



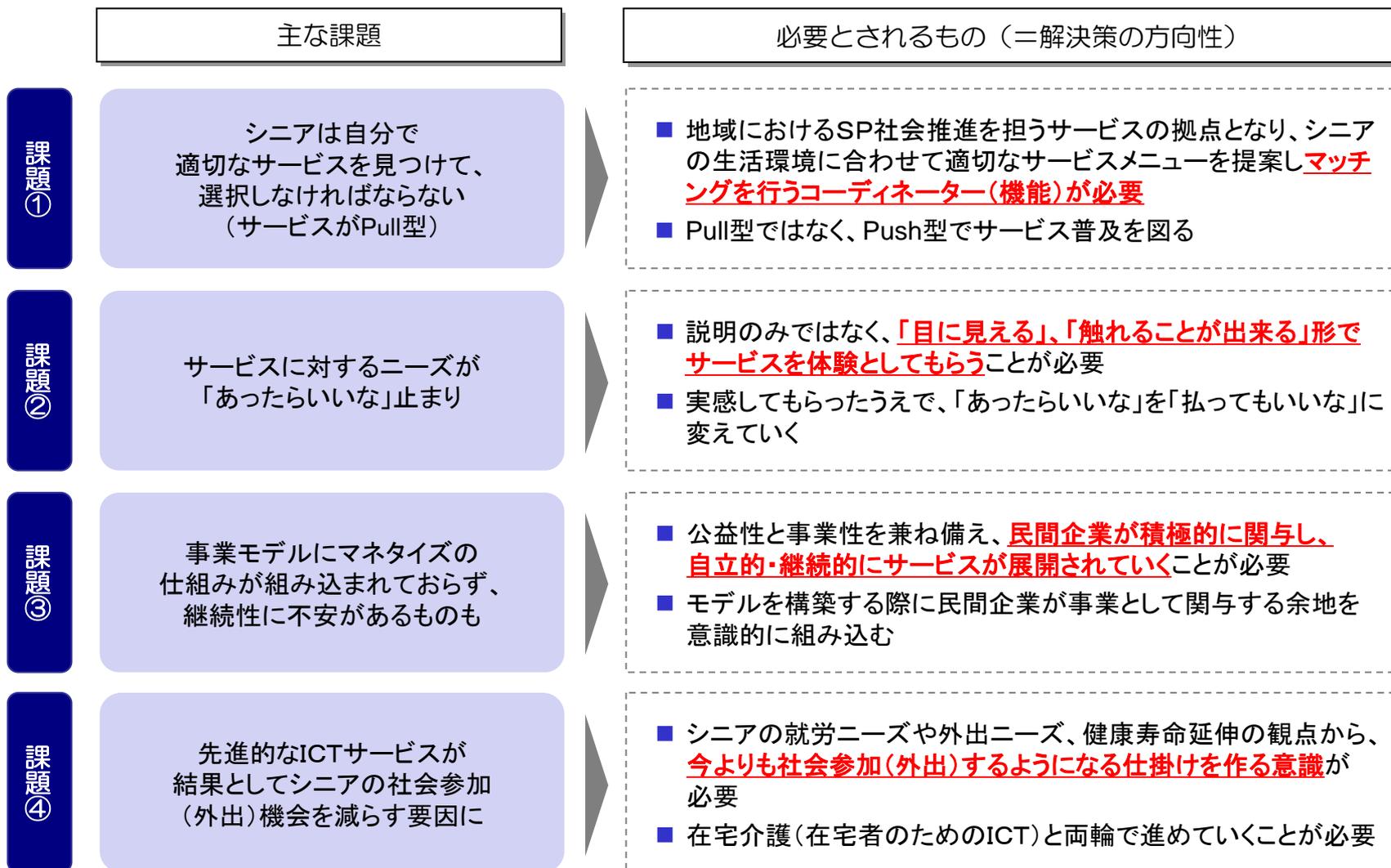
	掃除	食事	買い物	諸手続	外出	服薬	通院	人とのコミュニケーション	その他	不明	
n=	1,000	17.4	28.0	23.2	36.5	18.9	5.7	21.6	14.1	13.2	18.9
TOTAL	1,000	17.4	28.0	23.2	36.5	18.9	5.7	21.6	14.1	13.2	18.9
男性:65～69歳	181	16.0	43.6	13.3	24.3	9.9	5.5	14.9	11.6	9.9	21.5
女性:65～69歳	202	11.9	15.3	22.3	41.6	18.3	6.9	24.3	11.4	13.9	20.8
男性:70～74歳	157	18.5	45.9	22.9	24.8	19.1	6.4	18.5	20.4	8.3	21.7
女性:70～74歳	178	16.9	15.7	25.3	46.6	22.5	5.6	22.5	15.2	15.2	16.3
男性:75歳以上	123	21.1	38.2	24.4	32.5	14.6	4.1	24.4	17.9	15.4	16.3
女性:75歳以上	159	22.6	14.5	32.7	47.2	28.9	5.0	25.8	10.1	17.0	15.7

ライフサポートサービス、コミュニティ・社会参画、就労の課題と解決策の整理

▶ 分野横断的な課題と、それに対する成功のポイントを整理すると、概ね4つのクラスターにグルーピングが可能

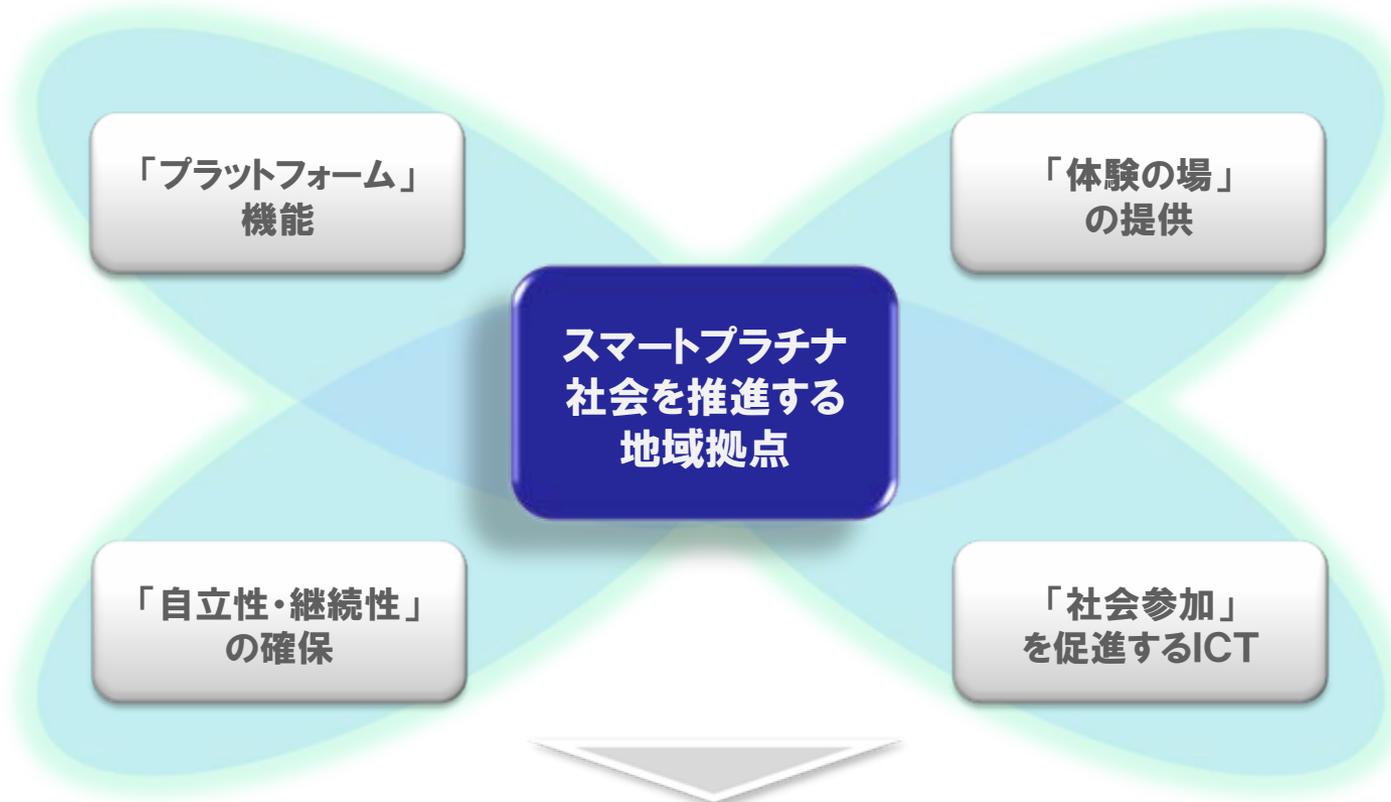


スマートプラチナ社会実現に向けた課題及び解決の方向性



スマートプラチナ社会の実現に向けたプラットフォーム構築のために

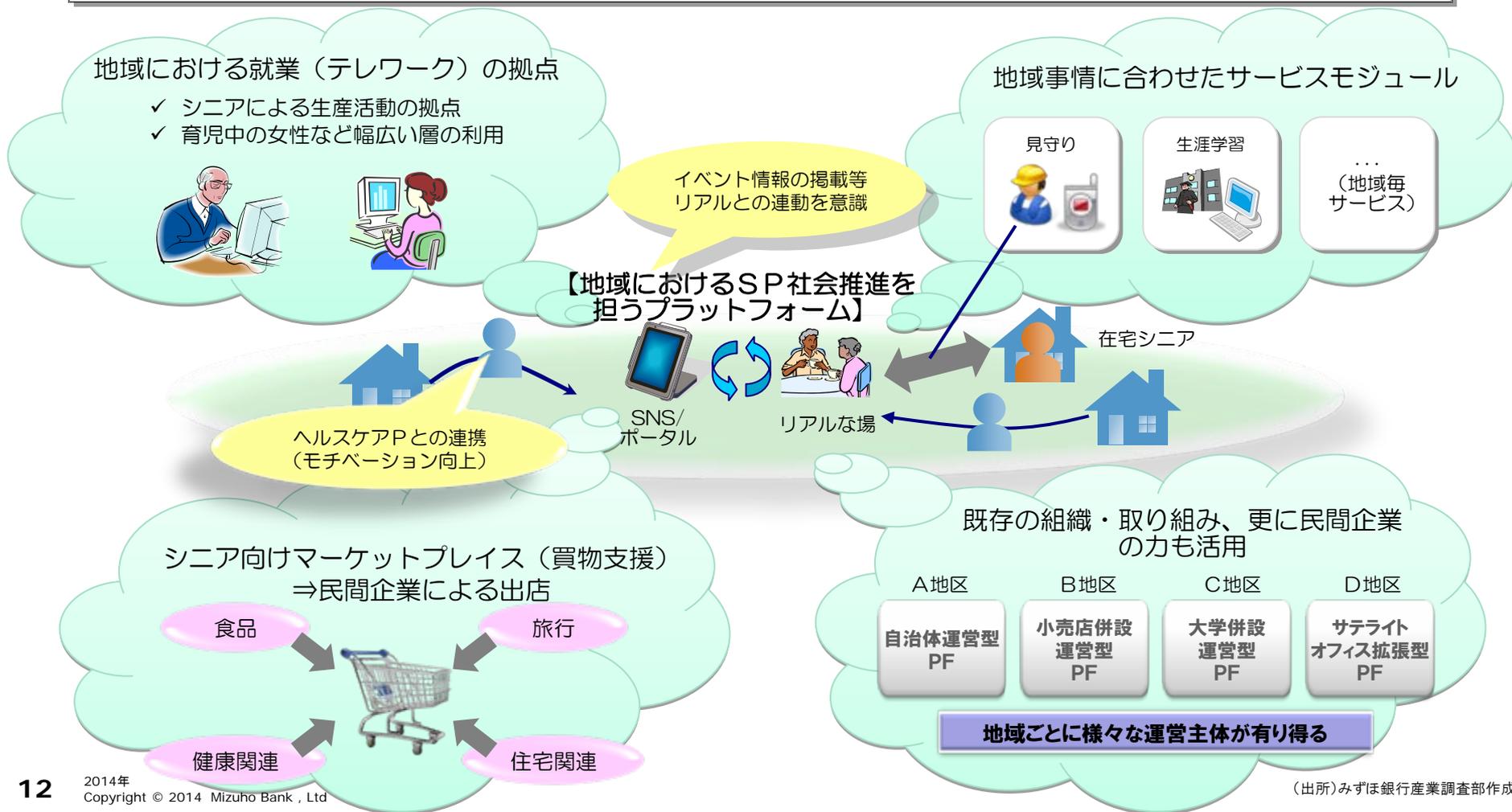
- ▶ スマートプラチナ社会の実現のためには個々の優れた取り組みモデルの確立と同時に、①それらを適切にマッチングし、②目に見える形で体験でき、③民間が積極的に関与することで自立・継続性を担保する仕組みを内包し、④シニアの社会参加を後押しするICTの仕組みが必要



個々の取り組みにとどまらず、「スマートプラチナ社会」を社会全体の大きな流れとする

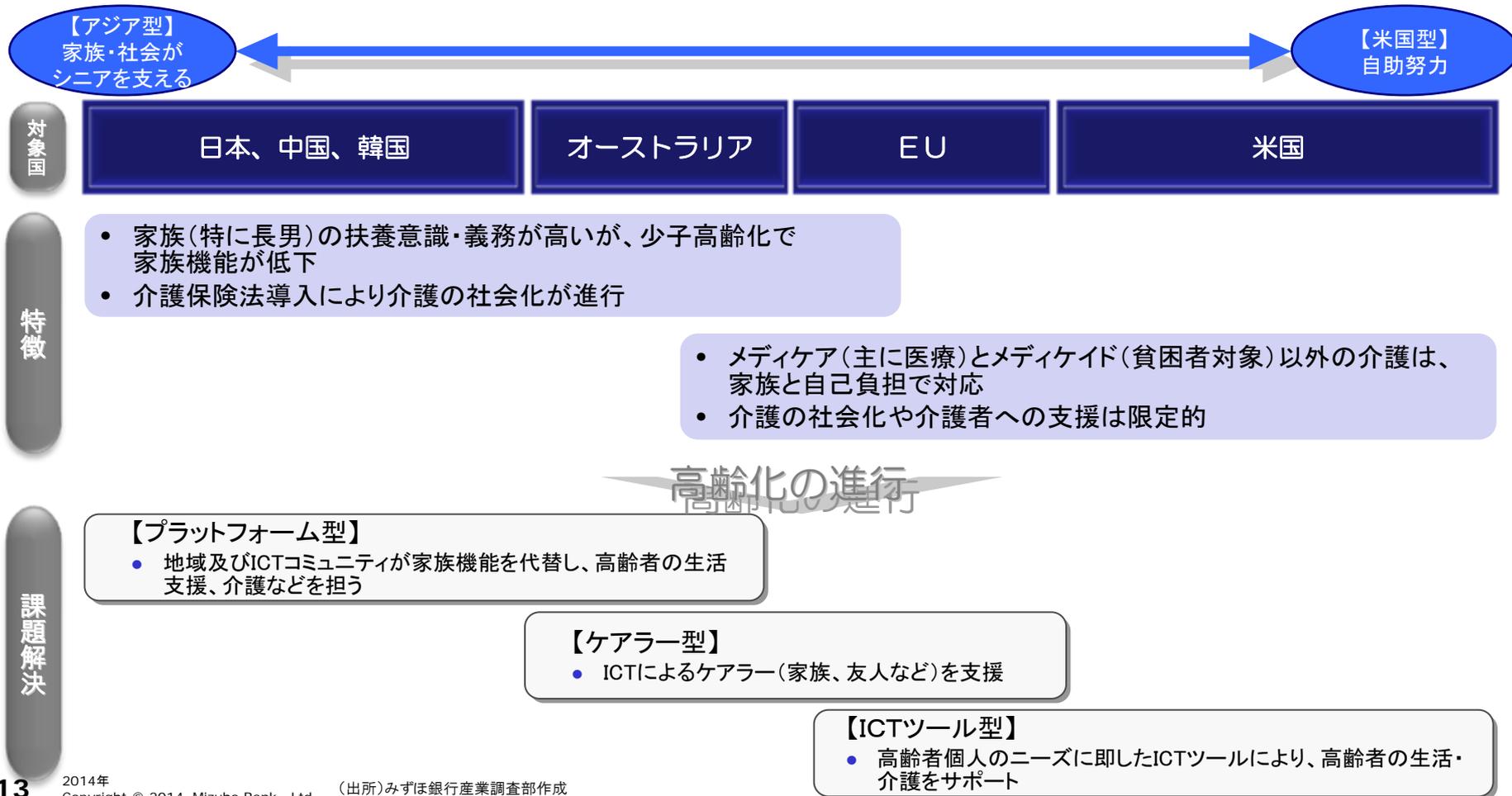
具体的なプラットフォームのイメージ

- ▶ コンシェルジュ機能や見守り(安心・安全)などをコアな機能として持ち、加えて地域事情に合わせて必要とされるサービスを提供
- ▶ シニアをターゲットとしつつも、若年層を排除せず、また育児中の女性のテレワーク需要などを取り込み、「シニアのみが集まる場」としない



スマートプラチナ社会プロジェクトの海外展開に向けた考え方

- ▶ 海外市場への展開を考えるにあたっては、ターゲット国を家族意識が強い「アジア型」と、個人意識が強い「米国型」に分けて戦略を立てる必要あり
- ▶ 今後高齢化の進行に伴い、「アジア型」では家族機能を補完する「プラットフォーム機能」が求められる一方、「米国型」では主に個々人のニーズに対応できるICTツール(ロボット等)で課題解決を図るアプローチが有効と思料



Disclaimer

© 2014 株式会社みずほ銀行

本資料は、貴社とのディスカッションを目的として作成されたものであり、本資料に記載された諸条件は仮定に基づくとともに、本資料に含まれる情報の確実性あるいは完結性を表明するものではありません。または、本資料における分析は仮定に基づくものであり、その結果の確実性を表明するものではありません。今後開示いただく情報、鑑定評価、格付機関の見解、制度・金融環境の変化等によっては、その仮定やスキームを大幅に変更する必要がある可能性があり、その場合には、本資料で分析した効果が得られない可能性がありますので、予めご了承ください。

また、本資料は貴社のリスクを網羅的に示唆するものではありません。本資料に記載されるスキームにつきましては、そのリスクを十分ご理解の上、貴社ご自身の判断でご成約ください。法務・会計・税務上の取扱いについては、それぞれ、弁護士、公認会計士、税理士などの専門家に別途ご相談ください。弊行は、別途契約の締結などを行わない限り、貴社の顧問として何らかの取引助言を行うものではありません。なお、本資料に記載されるスキームの実施にあたっては、融資等の実行を前提とするものではありません。